

令和6年2月6日

足立区立第十一中学校  
学校長 高田はつほ 様

足立区立第十一中学校 開かれた学校づくり協議会  
会長 田中 聰弘

## 令和5年度 学校関係者評価書

### 1. 自己評価書全般について

今年度の学校評価の結果は、概ね肯定的な意見が多数を占め、重点的な取組事項については達成できたと判断できる。

重点的な取組事項-1「学力向上アクションプランの確かな実践」では、区学力調査において、3科校内全体の平均通過率は目標値70%に対し、69%であった。

A Iドリルの積極的活用がなされ、11月の「A Iドリル活用強化月間」では平均解答数が942問と、区教委が設定した下限300問を大幅に上回った結果となった。家庭学習ノートの取組とあわせて、学力向上、学習習慣の確立につなげてほしい。また、金曜日朝テスト、放課後学習も定着しており、教員の努力を感じることができる。

重点的な取組事項-2、3においても自己評価書に記載されているとおり、学力向上だけでなく、生徒が身に付けるべき資質・能力を育成するために、研修等を充実させ、教員の指導力向上につなげていって欲しい。また、今年度の成果と課題を踏まえ、次年度に向けて課題解決に取り組んでいただきたい。

### 2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

生徒の学校評価で「学校に行くのは楽しい」に対し、肯定的な評価は、85.3%（平均値）であった。学校として今後も更なる努力を望む。

保護者の学校評価で「教職員は保護者に対して丁寧な説明・対応をしている」に対し、85.3%（平均値）が肯定的な意見であった。今後も丁寧な対応をお願いしたい。

新型コロナウイルスが5類に変更され、運動会、学芸発表会や修学旅行、魚沼自然教室も予定通り実施された。「第十一中学校に入学させて良かったと思う」に対して、79.7%は肯定的な回答をしている。この数値結果を分析し、学校行事のより一層の充実と保護者に学校の教育活動を理解してもらえよう工夫をしていただきたい。

開かれた学校づくり協議会委員によるアンケートの「地域や保護者は学校に協力的である」の肯定的回答は83.3%であるが、否定的回答も11.1%であることから、地域でも、中学生が参加できるイベント等を模索していく必要がある。また、部活動に関するガイドラインや教員の働き方改革等の関係で、今までとは違った協議会委員としての支援の方法を検討していきたい。

### 3. その他

部活動では、今年度も関東大会、都大会へ出場する部もあり、十一中学校として誇れる活躍が見られた。様々な教育活動に対する先生方の日々の指導に感謝する。

本協議会は、学校を支え、支援する会であり、これからも生徒のために、学校と連携し、支援していきたいと考えている。